



企業からみた国際共同 治験の現状と課題

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
謝 宏二先生

2017年 10月19日(木) 17:30~19:00

大阪大学 最先端医療イノベーションセンター マルチメディアホール

外資系のみならず内資系企業も新薬を開発する上で開発コストの削減や開発期間短縮のために開発早期から国際共同治験の実施を考えています。

本セミナーでは臨床開発担当者が国際共同治験を利用して、どのように日本の開発計画を立てているか？その計画を立てる上で考慮すべき要因はなにか？についてお話し、将来、開発計画立案やPMDAとの戦略相談、承認申請を目指す開発シーズをお持ちの先生方に少しはお役に立つようなお話をさせていただきたいと考えています。さらには、成功確率3%といわれるアルツハイマー病治療薬の開発を例に挙げて、内因性や外因性の民族的要因が国際共同試験の結果に影響を及ぼす可能性についてお話いたします。

共 催：大阪大学医学部附属病院（臨床研究中核病院）未来医療開発部
後 援：大阪大学医学部附属病院 国際共同臨床研究実施推進事業

お問い合わせ：大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部
E-Mail：seminar@dmi.med.osaka-u.ac.jp TEL：06-6210-8414